

やすらぎ

京都市立病院
広報誌

2021・1

冬



嵯峨野(右京区)

—特集—

教えて! 山本先生

冬の感染症や 新型コロナウイルスについて

- ◆ 京都市立病院初開催!
第1回 市民公開講座のレポート!
- ◆ 薬剤師のお仕事[病棟編]
- ◆ 「患者誤認防止のための取組」について



地方独立行政法人京都市立病院機構

京都市立病院

冬の感染症や新型コロナウイルスについて

感染症科の山本部長に冬の感染症や新型コロナウイルス感染症予防について、聞きました。

Q 京都市立病院ではこれまで多くの新型コロナウイルス感染症患者を受け入れていますが、感染症科ではどのような症状の入院患者さんを受け入れていらっしゃいますか？

A 主に中等症の新型コロナ患者さんを受け入れております。新型コロナ以外では、心臓にばい菌が入り、身体のあちこちに菌が侵入する感染性心内膜炎や、熱が長時間続く不明熱、HIV感染者さんを受け入れております。

患者さんに対しては、新型コロナを含め、治療の見通しが分かり次第、きちんとお話しし、安心して治療・入院していただけるよう心掛けています。



Q 新型コロナウイルス感染症や冬の感染症、それらの予防策について教えてください。

A 冬になると季節性インフルエンザの流行が見られますが、今年はマスク着用・手洗い等の予防の副次的効果が見られ、ほとんど発生していません。(季節性インフルエンザと新型コロナとの主な違いは下表を参考にしてください。)

冬は季節性インフルエンザ流行のほかには、急性胃腸炎(ノロウイルス)の流行が考えられます。急性胃腸炎の感染源は接触感染であることから、新型コロナの予防にも取り入れている手洗いの励行が大切です。また、風邪予防には、うがいも有効です。水でうがいをするだけで感染予防対策につながります。

基本の感染予防策が新型コロナをはじめ、様々な感染症の流行を防ぎます。マスク着用、手洗い・手指消毒・3密の回避の徹底をお願いします。また、冬場は換気を怠りがちですが、換気を怠ると、感染リスクが高まります。対策としては、24時間換気扇を回転させるほか、適宜窓を開ける等の対策をお願いします。

● 季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の比較

特徴	季節性インフルエンザ	新型コロナウイルス
主な感染経路	飛沫	飛沫(エアロゾル感染も)
感染力	新型コロナよりは弱い	強い
感染可能期間	多くは発症後から5日間程度	多くは発症2~3日前から1週間前後
潜伏期間	1~4日間(中央値2日間)	2~14日間(中央値5日間)
重症化のリスク因子	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上、2歳未満 ・免疫不全者 ・妊婦(産後2週間まで) ・病的肥満 ・慢性肺疾患、心疾患、肝不全、慢性腎臓病 ・長期療養施設入所者 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者(年齢とともにリスク上昇) ・男性 ・肥満 ・高血圧症 ・慢性肺疾患、心疾患、2型糖尿病、がん、慢性腎臓病、肝不全 ・潜伏期間中の外科手術 ・長期療養施設入所者 など
主な症状	発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、咳、鼻閉、咽頭痛、倦怠感	発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、咳、息切れ、倦怠感、味覚・嗅覚低下
小児での特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・多い(特に2歳未満は高リスク) ・小児はアウトブレイク拡大の主要な役割を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・頻度は低い、多くは軽症 ・小児多系統炎症性症候群が報告されているが稀 ・小児が感染源というデータは乏しい
致死率	約0.1%	約0.25-3.0%
症状の経過	最初の2、3日の症状が強い	若くてリスクがない人では2、3日間発熱して軽快することが多い 発症から1週間過ぎに急に悪化する人もいる
ワクチン	数多く承認されている	治験中

Solomon DA, Sherman AC, Kanjilal S. Influenza in the COVID-19 Era. JAMA. 2020;324:1342-3. より京都市立病院が改変



感染症科
山本 舜悟 部長

山本先生はこんな人

Q: 感染症科医師を志したきっかけは?

A: 日本には感染症内科医や感染を専門に診ている科が少ないので興味を持ちました。

Q: 休日はどのように過ごされていますか。

A: 休日は、密を避けながら子どもと外へ出かけたりしています。人手が少ない時期に、大覚寺や東寺を訪れました。運動不足を避けるため、身体を動かすことを心掛けています。

1人1人の感染予防対策が必要!新型コロナだけでなく、風邪予防にも。病院職員も意識して継続的に取り組んでいます。

新型コロナウイルス
感染症予防!
1人1人ができることを着実に実行!



日常生活で密を避ける

① 身体的距離の確保



② マスクの着用



③ 手洗い(手指消毒)



④ うがい



⑤ 換気(窓を開けましょう)



⑥ 十分な睡眠



⑦ バランスよい食事



「会食」での感染が多くなっている
ので「会」と「食」を分けましょう!

⑧ 適度な運動



Q 新型コロナウイルス感染症が厄介なところは? 今後の感染が不安...

A 新型コロナの潜伏期間は、最長2週間と言われており、本人に症状がなくても感染する可能性のある非常に厄介な感染症で、誰もが感染するリスクがあります。基本の感染対策を徹底し、なるべく密を避けながら、時々外に出て身体を動かすことも大切です。

新型コロナは、いかに早く見つけ、影響を少なくするかがとても大切です。少しでも体調が悪いと思ったら、休む、病院を受診するなど、1人1人の行動が感染拡大を防ぎます。

新型コロナ予防をはじめ、病院に来られる全ての人を感染から守るため、私たちが日々活動しています。あらゆる感染症の予防・啓発を行う感染対策チーム(ICT)のほかに、今回新たに新型コロナの対策チームを立ち上げ、多職種で連携し、専門的知識や経験等の知恵を出し合い、感染予防の取組を推進しています。



新コロナ部の活動の様子

見えない敵と戦うために!病院職員一丸となって感染対策を徹底しています

《感染対策チーム(ICT)》

職種	活動内容
医師 看護師 薬剤師 臨床検査技師 臨床工学士 理学療法士 管理栄養士 放射線技師 事務職員	病院内の感染症の把握、病院感染対策マニュアルの作成、感染防止対策に関するコンサルテーション・指導、院内における感染対策処置・予防処置の評価と指導、感染対策の啓発・教育等を行っています。



《新型コロナウイルス対策部会(通称:新コロナ部)》

職種	活動内容
医師 看護師 薬剤師 臨床検査技師 事務職員(DMAT隊員※)等	感染対策チーム取組内容の他に、現場職員及び患者さん等からの意見を集約し、迅速な方針決定支援、PCR検査の調整等の取組を迅速かつ的確に行っています。 ※DMAT・・・「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、専門的な訓練を受けた職員。

京都市立病院初開催！第1回

市民の皆さんに「健康増進」、「京都市立病院を知っていただくこと」を目的に市民公開講座を開催しました。今回はコロナ禍という中、事前に撮影を行い、京都市立病院公式ホームページで配信しています。やすらぎでは、演者の発表内容を簡単にご紹介します。

テーマ よくわかる「がん」の病気と治療 ～予防から最新治療・意思決定まで～

第1部 1



消化器がんを「楽にしっかり」治しましょう ～知って得する消化器がん治療の最前線～

総合外科部長 佐藤 誠二

生涯で「がん」になる可能性は、男性が約65%、女性が約50%と言われており、がん患者さんは高齢になるほど増加します。なかでも罹患数、死亡数ともに消化器系のがん患者さんが多くを占めます。

京都市立病院は、「消化器疾患の身体にやさしい楽な治療」が得意な病院であり、内科と外科が密に連携し、カンファレンスを合同で開催するなど、患者さんに最適な最新治療の提供を目指しています。胃カメラや大腸ファイバーで切除できる胃がん、大腸がんは消化器内科で治療します。切除可能な進行がんは外科で、できる限り患者さんの負担の少ない

内視鏡手術やロボット手術を行っています。患者さんにとっては、傷が小さく痛みが少ない（回復が早い）、癒着が少ない（腸閉塞※になりにくい）、長期的に見ても身体の動きが楽な治療です。また、京都市立病院では、早期からロボット支援手術を導入、活用し、胃がんでは安全性が高く、直腸がんではできるだけ肛門を温存するロボット手術を提供しています。京都市立病院では消化器がんの患者さんを「楽にしっかり」治すというモットーのもと医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士などがワンチームで患者さんに最新の医療を提供しています。

※腸閉塞…小腸や大腸が何らかの原因でつまってしまうことに伴い、吐き気や腹痛が表れる症状。

第1部 2



まずは血液検査から ～前立腺がんの早期発見・適切治療～

泌尿器科部長 清川 岳彦

前立腺がんの患者数は、高齢化社会や食生活の欧米化を反映し、早期発見のための血液検査が広まったこともあり、増え続けています。一方、死亡数は近年低下傾向にあり、早期の検査と治療の進歩が貢献していると考えられています。京都市立病院でも、前立腺がんの診断につながるPSA検査を積極的に導入しているほか、最新の画像診断、生検検査を駆使して、前立腺がんの早期発見に努め、得られた情報を吟味して、個々の患者さんに合った複数の治療法を提案しています。例えば、根治を目的とした治療方法の代表は手術療法と放射線療法ですが、いずれ

の治療法においても、当院では、最新の機器を用いた高度医療が可能です。泌尿器科が担当する手術療法においては、手術支援ロボットダヴィンチを用いたロボット支援手術を府内でいち早く2013年より取り入れ、数多くの手術経験に基づいた良好な実績を挙げています。ロボット支援手術は、従来の開腹手術や腹腔鏡手術と比較して、より広範囲のがんに対応でき、合併症も少なく、早期回復が期待できる優れた治療法です。患者さんご自身が、治療の方針を決定する過程では、10年、20年先を想定し、根治治療が必要かも含め、医師と十分に情報を共有し、価値観にあったものを選択してください。我々泌尿器科医は、患者さんに寄り添い、その意思決定の道しるべとなります。

市民公開講座のレポート!

オンライン
講座



視聴方法は
こちら 

この紙面だけでは、伝えきれない魅力がたくさんつまった動画をご覧ください!!

右のQRコード読み取り
又は京都市立病院
ホームページへ
アクセス!



興味のある
動画をクリック

1講座あたり
約40分あります。



ちょっとした
合間に

気軽に



第2部 1



がんに向き合う食事のヒント

栄養科 栄養管理係長 植木 明(がん病態栄養専門管理栄養士)

がん予防の観点から、塩分摂取量が多いと胃がん等のリスクが上昇する、野菜や果物の摂取が少ないと、食道がん、胃がん、肺がん等のリスクが上昇すると言われています。栄養バランスの向上を図ることが重要であり、主食、主菜、副菜をそろえて多くの種類の食品を食べるようにしてください。

がんの治療中の患者さんは、体力を保つための

体重維持がとても大切で、食事を摂ることがポイントとなります。

京都市立病院でも、管理栄養士が患者さんのベッドサイドで食事相談や栄養指導を積極的に行っているほか、患者さん向けのがん対策食冊子やリーフレットを提供しています。また、退院後も継続した食事・栄養管理ができるように次の施設等に対し、詳細な栄養に関する情報提供を行うなど、きめ細かな食事対応や提案を行っています。

第2部 2



十人十色の意思決定

～正解は1つではない その選択を支える看護～

看護部 副看護師長 吉田 克江(緩和ケア認定看護師)

緩和ケア認定看護師として、患者さんとご家族の体と心のケアをして、生活の質をよくするお手伝いをしています。最近では「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)-人生会議」と言われる、本人が自分の思いを表出したり、決定できなくなる前に、人生最終段階の医療やケアについて、本人がご家族や医療従事者と事前に話し合い共有すること、そのプロセスが大切だと言われています。意思決定は、がんと診断され治療を受ける時、再発・転移がわかった時、積極的ながん治療を諦めざるを得なくなった

時など、様々な場面で必要になります。意思決定はそれぞれの価値観に照らし行うので、正解は1つではなく間違いもありません。状況によって変化もするため、1度きりのものでもありません。

日々患者さんと接する中で、まず患者さんのお話をじっくりと聴くことを大切にしています。その会話の中で患者さん自身が自分の思いに気づき、整理していかれることも多くあります。時には少しアドバイスをさせてもらいながら、患者さんの意向を大切に、治療や療養の意思決定ができるように支援しています。

紹介します!

薬剤師のお仕事 [病棟編]

病棟薬剤業務

◎持参薬鑑別

入院患者さんが持参された薬の情報を、「鑑別報告書」としてカルテに残します。

薬品名や用法・用量だけでなく、手術前に休薬が必要な薬・アレルギー薬・市販薬やサプリメントの使用の有無なども確認します。

このとき患者さんやその家族の方々から話を聞いて、入院時の患者さんの状態に見合った薬、使い方であるかを評価しています。また、同じ効果の薬が複数処方されているときは、必要性を検討します。

薬剤師は、鑑別と評価した内容を医師に情報提供することで、処方設計を支援しています。

当院で採用していない薬がある場合は、医師に代替となる薬の情報提供をします。



◎処方歴管理

入院患者さん一人ひとりが使用する薬について、服用歴や今後使用される薬を事前に確認します。具体的には、飲み合わせ、薬の重複の有無、アレルギー薬のチェック、また、検査値やバイタルサイン、効果や副作用の状態、訴えなどを基にそのときどきの患者さんの状態に適した処方内容であるかを考えています。

薬剤管理指導

患者さんと面談して、病気や薬についての情報提供や、効果・副作用のチェックをします。

これは、治療への理解を深めていただき、副作用にいち早く気付いてもらうためです。

このとき患者さんの考えや気持ちを大切に、一方的な指導にならないよう心がけています。

また、訪室した時の患者さんとの会話をもとに薬の処方内容を再評価し、ときには医師にフィードバックすることで適切な薬物療法を支援します。

同時に服用してはいけない薬はないかな?



◎医薬品情報の提供と相談応需

医薬品に係る様々な情報を把握し院内に周知します。

医療スタッフからの質問・相談に応えます。(例:薬の効果がでない、副作用があるときの対処方法など)

◎抗がん剤調製

抗がん剤の組み合わせや投与量を確認し、無菌的に調製しています。

チーム医療

「チーム医療」とは、異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することで特定の病態の改善を図ったり、患者さんの生活の質(QOL)の維持・向上や、患者さんの人生観を尊重した療養の実現をサポートしたりすることです。

薬剤師はどのように入院中、そして退院後の薬物療法を支援しているの?

院内の様々な専門チームラウンドにおいて

- ★飲み込みにくさの改善のため、剤形※の変更を提案
 - ※剤形…薬の形状のこと。錠剤、粉薬、水薬、貼り薬、坐薬など。
- ★栄養状態の改善のため、栄養成分の追加や、食欲改善につながる薬の追加を提案

多職種との連携において

- ★退院後の薬の管理状態やアドヒアランス※の維持・向上のため、退院支援カンファレンスに参加し、患者さんやその家族の生活に合った薬物治療を提案
 - ※アドヒアランス…患者さんが治療方針の決定に参加し、その決定に沿って治療を受けること。

当院のホームページでも各専門チームの活動について詳細を紹介しておりますので、ご覧ください!



【術後の急性疼痛サポートチームのラウンド風景】
痛みが続いている場合、基礎疾患も考慮してより効果のある薬を提案します。

薬剤師には病棟以外にも様々な業務がありますが
一貫して、患者さん中心のより良い医療につなげることを念頭に置いて活動しています!

「患者誤認防止のための取組」について

患者誤認の発生は、患者さんの治療・処置をするうえで、重大事故につながる可能性があるため、確実な防止策を講じる必要があります。当院では、医療安全推進室が中心となって、多職種とともに事例を検討し、日々改善に努めています。

その一環として、当院の医療の質の改善に向けて、「患者誤認による重大事例の発生件数ゼロ」を目指し、全職員が様々な取組を実施しています。今回はその取組内容をご紹介します。

主な取組内容

●「フルネームを名乗ってもらう」活動の実施

医療安全推進室の職員が各部署を訪問し、患者さんにフルネームを伺うよう啓発活動を行っています。また、各部署に配置している部署安全マネージャーを中心としたグループが、入院患者さんの病室へ伺い、職員からフルネームを聞かれた際にはお答えいただくよう、お願いに回りました。

----- 訪問、チラシ配布等による啓発活動 -----

(訪問の様子)



※コロナ禍のため現在は実施していません。



職員からフルネームをお伺いすることで未然に患者誤認を防止できた事例が30%ありました。お手数をお掛けしますが、職員から尋ねられた際はフルネームを教えてくださいね。



ラウンド時には
ビブスを着用

注意喚起の
チラシを作成、
院内に掲示



●各部署で患者誤認防止活動の実践と評価

各部署が患者誤認防止の取組を実施し、医療安全推進室が各取組の評価と指導を行っています。

また、退院時に診察券を返却する際、別の入院患者さんの診察券を返却した事例がありましたので、入院患者さんの診察券を預かる運用を取りやめ、患者さんの名前シールを活用する運用に変更しました。さらに、入院患者さんのレントゲン撮影を行う際、連絡方法等の業務手順を変更するなど、日々改善活動に取り組んでいます!



～市民公開講座案内・担当者から～

市民公開講座を、京都市立病院のホームページにおいて配信しています。

本格的な市民公開講座の開催は初の試みでした。市民の皆さんに「がん」のことを知ってもらい、早期発見・早期治療により、健康維持・増進に貢献したい思いでした。当院の「がん」の医療スペシャリストによる講演を通して、高度医療機器や治療・ケアを知ってもらい、市民に選ばれる病院となることを切に願っております。今回は新型コロナウイルスの影響により、ホームページでのYouTube配信のみとなりましたが、コロナ収束を願うとともに、次回は皆さんの前で講演を実現できればと願っています。

～1月から診察券が変わります～

令和3年1月から、新たに発行する京都市立病院の診察券のデザインが右のとおり変更となりますので、お知らせします。

(なお、今お持ちの診察券は引き続きご使用できます。)

京都市立病院公式キャラクター「みぶまる」が目印!



～その他イベント・取組のご案内～

現在、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、院内主催のイベント等を「中止」しています。再開等の情報は決まり次第、京都市立病院ホームページにて公表しますので、ご確認をお願いいたします。また、糖尿病教室においては、WEBにより、教材を市立病院ホームページにおいて公開しています。

こころの安定を保つために大切な6つのこと



その1 しっかり食べてよく寝て!

その2 情報ばかりにとらわれず、自分の時間を!

その3 SNS、電話などで大切な人とつながろう。

その4 自分のこころとからだに注意を向けてみよう。ありのままを受け止めよう。

その5 力をゆるめる方法を試してみよう!

その6 相談機関、話せる人などに相談してみましょう。

敷地内全面禁煙



路上喫煙はやめましょう!

喫煙はマナーを守って決められた場所です。



京都市立病院

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番地の2
TEL 075-311-5311(代) FAX 075-321-6025(代)
<https://www.kch-org.jp/>

送迎バス時刻表(無料・予約不要) ※平日のみ(土日祝・年末年始は運休)

時間	京都市立病院 ～出発～	阪急西院駅 (TSUTAYA前)	JR丹波口駅 (ユニクロ前)	京都市立病院 ～到着～
8時	30	35	45	50
9時	00 30	05 35	15 45	20 50
10時	00 30	05 35	15 45	20 50
11時	00 30	05 35	15 45	20 50
12時	00 30	05 35	15 45	20 50
13時	00 30	05 35	15 45	20 50
14時	00 30	05 35	15 45	20 50
15時	00 30	05 35	15 45	20 50
16時	00 30	05 35	15 45	20 50



編集後記

今回のやすらぎでは、感染症科の山本部長へインタビューを行ったほか、オンラインで無観客の開催となりましたが、市立病院で初めて市民公開講座を開催したことを記事にしました。広報誌が完成しているころは、ぐっと寒くなり、本格的な冬が到来していると思います。例年以上に皆さんも体調管理を心がけていただけたらと思います。

やすらぎ 2021・冬号

2021年1月6日発行

発行：京都市立病院機構 京都市立病院

〒604-8845

京都市中京区壬生東高田町1番地の2

TEL 075-311-5311

FAX 075-321-6025

